



Title	2015年度 意匠学会賞選考結果報告
Author(s)	塚田, 章
Citation	デザイン理論. 2016, 68, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/57973
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2015年度 意匠学会賞選考結果報告

学会賞選考委員会

委員長 塚 田 章

学会賞選考の経緯

2015年度意匠学会賞応募の締め切りは2015年11月末であったが推薦は無かった。この賞は暫く受賞者が無い状況が続き、2013年度に意匠学会会員ではないが柏木博氏が『探偵小説の室内』の著作に加えデザイン教育及び一般大衆に対するデザイン啓蒙活動に寄与し、社会におけるデザインの意義を伝え続けてこられた功績をもって顕彰された。2014年度は推薦が無かった為にまた受賞者無しとなったが、その年度最後の役員会で、推薦が無かった場合には学会賞選考委員会からの提案を以てでも顕彰するべきとの指摘が為された。従って2015年度も会員からの推薦は得られなかったが学会賞選考委員会としての提案を委員会のメンバーに募った。その結果浮上したのが“KYOTO Design Lab”という団体に意匠学会賞を顕彰するという案であった。当初は委員会のメンバーから、前回に引き続き、会員を顕彰せず、デザイン界への俯瞰的視座から顕彰するという視座の定着が、会員への顕彰を一層遠のくものにするのではないかと指摘も為されたが、最終的には“KYOTO Design Lab”には会員がメンバーとして多く関わっている事を考慮しての顕彰であれば斬新な提案であるとの判断がなされた。この学会賞選考委員会からの提案は5月の役員会に報告され承認を得た。

受賞団体 KYOTO Design Lab

業 績 2015年度のKYOTO Design Labの海外交流プログラム

- ・ Design Academy Eindhoven とのコラボレーション “京丹後のちりめん産業”
- ・ National University of Singapore とのコラボレーション “京都の伝統工芸技術を生かした新たな製品の開発”
- ・ Royal College of Art とのコラボレーション “プロトタイピング・プログラムの開発”
- ・ Brighton University とのコラボレーション “Design Upcycling – New Material, New Product”
- ・ ETH Zürich とのコラボレーション “日本庭園の3D計測と分析”
- ・ Princeton University とのコラボレーション “近現代比較建築史ワークショップの開催”
- ・ Kingston University とのコラボレーション “Intelligent Making”

- ・Lars Müller とのコラボレーション “Communicating Architecture”
- ・TU Delft とのコラボレーション “京町家改修計画”
- ・Katholieke Universiteit Leuven とのコラボレーション “建築都市保存再生学事始”
- ・ETH Zürich とのコラボレーション “アダム・カルーソ講演”
- ・Royal Danish Academy of Fine Arts とのコラボレーション “京町家と北欧デザインの関係性”
- ・Ars Electronica Center とのコラボレーション “ORIBOTICS —「折る」ことの美学とテクノロジー”
- ・Royal College of Art とのコラボレーション “サム・ヘクト デザインワークショップ”

推薦理由

スタンフォード大学では2004年にデザインスクールが設立され新たな取り組みとして注目されているが、以降様々な大学で工学、情報学に関連させたデザインスクールが設けられ、デザインシンキングを工学の分野に展開して新たな発想での研究開発が目されている。関西でも京都大学がデザインスクールを設け、京都工芸繊維大学はKYOTO Design Labを立ち上げた。京都工芸繊維大学はデザインとエンジニアリングの実践的教育の場として1899年以來の長い歴史がある。設立の趣旨には“D-lab はデザインの実践に直結する方法論を考究し、デザインによる社会変革を試みる場です。わが国で初めて都市・建築の再生を建築教育・研究の中心に据えるとともに、デザインをもって、来るべき高齢化社会を始めとする、快適な社会像の設計を目指しています。世界中から招いた一流のデザイナーや研究者が文化都市・京都に滞在し、京都工芸繊維大学の構成員と、産業界や行政、市民らさまざまな立場のパートナーとともに、課題の発見と解決に取り組みます。”とあるが、前述の業績に加え、発足以来実践される様々な活動が、デザインが今日直面する諸問題への的確な対応であり着実に成果をあげている。またデザイン教育及び広く一般に対するデザイン啓蒙活動に寄与し、社会におけるデザインの意義を発信されていることに鑑み、その功績は多大であり、学会の枠を超えて、意匠学会として顕彰するにふさわしいと判断された。